

芙蓉楼にて辛漸を送る（王昌齡）

寒雨連江夜入呉 平明送客楚山孤
洛陽親友如相問 一片冰心在玉壺

解説 この詩は作者が、芙蓉楼で洛陽に帰る友人の辛漸を送別した
もの。

寒雨 江に 連なつて 夜 呉に 入る

平明 客を 送れば 楚山 孤なり

洛陽の 親友 如し 相 問わば

一片の 氷心 玉壺に 在り

語釈 ※芙蓉楼 潤州の西北隅にあつて、北に揚子江をのぞむ。
※辛漸 王昌齡の友人である。※寒雨連江 寒々とした雲が立ち込
め、雨が降り注いで、天と水の区別のつかないさま。※入呉 王昌
齡と辛漸が呉にやつて来た。※平明 明けがた。※楚山孤 楚の山
がぼつりと見える。※一片氷心 一片の透き通つた氷のような心。
※玉壺 白玉で作つた壺。

通釈 寒々とした雨が揚子江に降り注ぐ中を、夜になつてから呉の
地にきた。あけがたに、友人を見送ると、夜来の雨もやんで、朝も
やのはれゆく中にぼつんと楚の山が見える。洛陽の友人がもし、王
昌齡はどうしているか、と尋ねたら、彼の心は一片の澄み切つた氷
が玉壺の中にあるようだ、と言つてくれ。